



# 幼児教育センターだより

## 第1回富山県幼児教育推進連絡協議会

【実施日】7月26日(水)

【場 所】県民会館

【参加者】養成機関、市町村、幼児教育関係各種団体、小学校、保護者等の代表者

【内 容】令和5年度幼児教育センターの取組、富山県幼児教育推進連絡協議会専門部会についての報告

富山県幼児教育における質の向上を目指した協議



### 【訪問研修】

○幼児教育アドバイザーとして、訪問研修に行くのがとても楽しい。どの園でも「子どもの主体性」を大事にしようという熱意が伝わってくる。

▲保護者・地域との連携(周知の工夫)が課題である。

### 【幼小接続】

▲ねらいが明確にある小学校教育と、まず子どもに「何、したい？」と尋ねる幼児教育には、大きな段差があることを知ることが大切。

○まず、小学校教員が園を見に行くことから始めている。

### 【他の視点から】

- ・保育士等を目指す学生が自信をもてるように、現場へ出る機会を増やす等、実習の在り方を考えたい。
- ・主体的に学んで(遊び込んで)いる幼児・児童にどのように関わるべきか等、保育者、小学校教員の質の向上が重要。



それぞれの立場から、貴重なご意見をいただきました。今後の幼児教育センターの取組に、どのように生かせるか考えていきます。

# 幼児教育・小学校教育の円滑な接続推進研修会



【実施日】7月31日(月) オンライン

【参加者】県内小学校、義務教育学校、幼児教育施設、  
市町村教育委員会、幼児教育施設主管課 希望者 約150名

【内容】國學院大學 吉永安里准教授 講義

演題：創造的な思考と主体的な生活態度をつなぐ架け橋期の教育

〈幼児教育と小学校教育のギャップを5歳、6歳の子どもが乗り越えるために大切なこと〉

- ・ 幼児教育、小学校教育の先生方が、互いの教育を知り合うこと
- ・ 幼児期の子どもの特性を分かち合い、共有して、大人ができることは何かを一緒に考えていくこと
- ・ 園・学校全体で架け橋期の教育に取り組んでいくこと

## 【幼児教育の先生から】

園全体と学校全体で取り組むものとして、互いに相手を知る必要があると感じた。園は、子どもの育ちを理解し、言葉で伝えられるようにすること、そして育まれた力がどのように繋がっていくかで、意識していきたい。

## 【行政・幼児教育担当の方から】

形ばかりの連携ではなく、本当に子どもの力を発揮させる環境や支援となっているか、連携・接続の視点を明確にすることの大切さを痛感した。「エビデンスよりエピソード」。入学してきた子どもたちが力を発揮している姿のエピソードをたくさん集めていきたいと思った。



受講後アンケートより

## 【小学校の先生から】

幼稚園・保育園で育まれた子どもたちの姿・力を大切にし、できることは子どもたちに任せ、より主体的に活動できるよう柔軟なカリキュラムを考える必要があると改めて見直す機会がもててよかった。



幼児教育・小学校教育接続推進事業のモデル校の中には、ゴールデンウィーク明けに起こりがちな学校への不適応が例年より少なかったのは、幼小が一緒に作成したスタートカリキュラムを活用したことと関係があるのではないかとあります。このモデル校では、学校への不適応が懸念される夏季休業明けにも、このスタートカリキュラムが使えるのではないかとあります。

園・所と小学校、それぞれの大人が互いにできることを共有し、子どもたちの学びを支えていきましょう。

